

1. 件名：福島第一原子力発電所における循環注水冷却・滞留水等に係る定例会
2. 日時：令和3年6月25日（金）10時00分～11時05分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

知見主任安全審査官、新井安全審査官、高松専門職、久川係員、高木技術参与  
福島第一原子力規制事務所

黒川原子力運転検査官（テレビ会議システムによる出席）

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

プロジェクトマネジメント室 担当1名

福島第一原子力発電所 担当12名（テレビ会議システムによる出席）

## 5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社から、資料に基づき、主に以下の説明があった。
  - 1号機燃料取り出しに向けた工事の進捗について
    - ✓ 2021年度上期より大型カバーの設置工事に着手すべく、本年6月19日に建屋カバー（残置部）の解体を完了し、現在、原子炉建屋周囲の作業ヤード整備や構外ヤードでの仮設構台の組立て作業等を実施している。
  - 2号機 X-53ペネトレーション（以下「ペネ」という。）内調査の実施について
    - ✓ 現在、X-53ペネには2012年1月の2号機原子炉格納容器（PCV）内部調査時に使用した丸棒が残置されており、今後設置予定のスプレイ治具と干渉するおそれがあることから、本年6月29日に、カメラ、ワイヤー等を具備した調査ロッドを用いて、ペネ内の調査を実施し、可能な場合は当該丸棒を回収する予定である。
    - ✓ 回収する際には、調査ロッドに具備しているワイヤーで丸棒を把持して引き抜くことを基本としているが、万が一、丸棒とペネが固着してワイヤーが通せない場合には、丸棒をPCV内部へ押し込んでX-53ペネから取り除くことを検討している。
    - ✓ 本調査に当たり、調査ロッドを収納したグローブボックス等から成る調査装置をX-53ペネの既設隔離弁フランジに接続し、漏えい確認をした上で既設隔離弁を開とすることにより、PCVのバウンダリを維持しながら作業を行う。
  - 1号機 PCV内部調査にかかる干渉物切断作業の状況
    - ✓ 2019年4月19日から着手しているPCV内部調査装置（水中ROV）投入に向けた作業について、本年6月17日及び18日にかけて、鉛毛マット及びグレーチング切断作業が完了し、7月上旬にグレーチング下部鋼材、手摺（横部）の切断を予定している。
    - ✓ なお、上記の切断作業によるPCV内のダスト濃度上昇は作業管理値以内であり、建屋内作業エリア及び敷地境界近傍ダストモニタ等への影響は確認されていない。
- 原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認するとともに、以下のコメント等を行った。
  - X-53ペネ内の調査結果（丸棒の回収の有無等）や今後のX-6ペネ堆積物除去等に係るモックアップの状況については、今後も引き続き説明すること。

- 1号機のPCV内部調査にかかる干渉物切断作業について、今回はダストモニタ等への影響は確認されていないとしているものの、過去のアプレシブウォータージェット(AWJ)による孔開け作業時にはダスト濃度上昇が確認されていることから、ダスト濃度上昇に寄与すると考えられる切断時間等のデータについては、今後の類似作業に対するダスト発生量評価等に反映できるよう整理しておくこと。
- また、原子力規制庁は、本年6月15日の面談において東京電力ホールディングス株式会社から説明のあった、東京電力福島第一原子力発電所の現状に合わせた保全区域の設定に係る考え方等について、同社に対して、当庁としても考え方に乖離はない旨回答した。

## 6. その他

資料：

- 循環注水冷却スケジュール
- 使用済燃料プール対策スケジュール
- 燃料デブリ取り出し準備スケジュール
- 1号機 PCV内部調査にかかる干渉物切断作業の状況
- 1号機燃料取り出しに向けた工事の進捗について
- 2号機 X-53ペネ内調査の実施について